

イノベーション創出型 STEM 人材の育成

VIDEO TRANSCRIPT

世の中の社会課題をどう捉えるのか
捉えて それを新しい技術を使って
どう解決するのか
人間同士がコミュニケーションをとりながら
考え実践するってことを重視しています

今ですとデジタル IT アクセンチュアが持っている
ICT のスキルを若い世代に提供して
日本の経済力 競争力を高めていく

ビジネス全体の中で多分デジタルって
すごくエクスパンドしていて
その中で STEM の重要性というのは
すごく高まっていると思います

アクセンチュアの企業市民活動は
“Skills to Succeed”という共有テーマで
推進されています
2020 年までに世界各地の 300 万人以上の
人々に 就業や起業のためのスキル構築の機会
を提供することを目標としています

日本においても“Skills to Succeed”の
テーマに沿った数多くのプログラムの提供を
通じて人材・スキル課題の解決を図り
持続可能な社会づくりに貢献しています
その取り組みの 1 つに 科学・技術・工学・
数学のスキルを有する「STEM 人材の育
成」があります
その中から 2 つのプログラムをご紹介します

ロボットとプログラミングについて
学びました！

小学校高学年の子どもたちを対象とした
ロボットプログラミングワークショップを
NPO 法人 CANVAS とともに
展開しています

実際にロボットを作ってみよう ですか
世の中でどんなことが困ってるのかな
社会課題を解決するロボットはどんなもの
が必要かな ということを考えて発表する



セキュリティについてのロボットを
作ることにしました

プロの方と子供達が一緒になって
ワークショップをするということが子供達に
っては良い体験なんじゃないかな ということ

適正な知識を持って使うことで
世の中の役に立つようにどうとでも変えられる
ので それをちょっとでも実感するためには
こういう小さい時から触っておくのは大事なな
と思います

できることを体験するとか みんなでアイデアを
出すみたいな そういう楽しさとか
できたっていうそういう実体験を 早いうちに
感じてもらいたいなというふうに思っています

きっと本当に世界を変えるようなロボットが
当たり前になる時代になっていく

面白かった～！

何が問題で それに対してデータで
どうアプローチするのかというところを
組み立てるような講座にしています

津田塾大学をはじめ複数の大学で
「実践型データ分析演習講座」を実施して
います
津田塾大学の講座では 連続講座の中で
実際に渋谷区のオープンデータを使って
分析スキルを学びながら 地域課題を自分
事として捉え 解決に取り組んでいます

データをそもそも分析するってことは
どういうことなのか

それから 実際にその結果として
社会に貢献する そのプロセス
それを今まさに現在進行形でやっていらっ
しゃるアクセントチュアの方々に
直接やっぱりコンタクトしてもらう
そこに非常に大きな意義がある と

今回自治体さんにご協力をいただいて
データをご提供くださったので 自分たちの
生活に密接なデータになってくると思うので
そういうところで生のデータに触って
分析を近くに感じてほしかったなと

データを触ってみよう ということ
アクセントチュアの方に教えていただいて
データからまず何を言えるのかってことが
大事なんだよってことをすごく教わりました

行政が 何をやっているのかとか
目を向けてくれるんじゃないかな という

実際の施策に活かしていく
というところになれば本当にいいのかな
というふうに思っています

女性のスタッフさんに
たくさん来ていただいて しかもそういう人た
ちがバリバリやっているという姿を見せてい
ただいていますので
その点に関しても
本当に大きいことなのかな というふうに
思っています



アクセントゥアから結構いろんな人が
来てくださるってことで 常一貫して
アクセントゥアの方がやってくださるというのは
他の授業と違うところだと思います

グローバル全体として理工系
STEM 領域の女性の不足というのは
すごく言われていて女性も理系分野に
行ってきちんと仕事があって
活躍できるんだよっていうところは
私たちが伝えて行きたいなと思っていて

ちょっとでも 生活とか
自分のもう少し身近に感じてもらって
好きになってもらってというのが
一番大きな目的かな と思っています

身近なもの 課題に身近なテクノロジーを
応用して 学習させて素晴らしいサービスを
作っていくことが 多分これからは
求められると思うのですが
考えるきっかけにして欲しいなと思っています

Copyright © 2018 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo are
trademarks of Accenture.